
言霊(ことだま)

R8.1.1
陰陽思想講座

「言霊」とは、言葉が持っている神秘的な霊力のことです。
言葉には、発した言葉通りの結果が表れると信じられていました。

1. 現代にも続いている言葉の力

日常生活から拾ってみましょう。

- ・病院、ホテルの室番号は 4 を使いません。
車のナンバーも 4 を避ける人もあります。
- ・年賀状では去年と書かず「昨年」と書きます。
- ・結婚式では、「別れる」「切れる」「死ぬ」などの忌み言葉は使いません。

私たちは、このように様々な形で言葉の持つ力を意識して生活しているようです。
これらは言霊信仰の名残りのようです。

2. 日常の会話にも生きている言霊

① あいさつ言葉

「ってきます」は、言霊パワーのある言葉です。

ってきますは、「行って」+「帰って来ます」

行ってらっしゃいは、「行って」+「いらっしゃい」の複合語です。

行く人は「帰って来ます」という言葉を暗に発しており、見送る人の「いらっしゃい」は「来てね」という意味の尊敬語です。「必ず帰って来るよ」という約束の言葉でもあります。

「ただいま」は、「ただ今、帰りました」の省略語です。

この言葉で約束が果たされたことになります。

「おかえり」は、「ようこそお帰りなさいました」の省略語です。これには、約束を守ってくれたという感謝の気持ちが含まれています。

あいさつ言葉一つとっても、言葉の奥深さがあり、日本人は昔から意識せずに思いやりと約束の言葉を口から発していました。

② 感謝の言葉

感謝の言葉と言えば誰もが一度は必ず使ったことがある「ありがとう」という言葉。この言葉は人から言われると誰しも喜ぶ言葉です。

この感謝の言葉も、人を褒める言葉と同じで、人が自分に言ってくれる「ありがとう」も自分が人に伝える「ありがとう」も自分の脳の中では、同じ効果を持つようです。そのため、人に「ありがとう」と伝えると、自分が気持ちよく感じると言われています。

③ ネガティブな言葉とポジティブな言葉

ネガティブな言葉はそのままネガティブな気分にしてしまいます。落ち込んでいる時にネガティブな言葉を吐くことで、どんどん闇の底に落ちていくのはそのせいです。

逆を言えば、落ち込んでいる時に面白い言葉や明るい言葉、前向きな言葉を言えないのは、ネガティブな言葉によって、どんどんネガティブな空気を自分で寄せ付けてしまっているからです。ネガティブな言葉とは、「どうせ無理」「きっと失敗する」「私なんてだめ」などの悲観的な言葉です。

疲れた時に、疲れたという言葉を使わずに、「今日も頑張った」とポジティブな言葉に変えるだけで、脳では疲れたというネガティブな言葉ではなく、頑張ったというポジティブな意味で認識されるようです。

また、落ち込んだりした時に自分に「大丈夫」という言葉を使うのも、ただただ自分を励ましているだけではなく、しっかりと作用しているようです。

意外と自分の感情、脳というのは単純で、どんなに落ち込んでいたりしても、同じ言葉を繰り返し使うだけで脳が勝手に勘違いしてくれるものです。

大丈夫という言葉の他にも、例えば仕事上でミスや大きな失態をしてしまった時に「想定内」という言葉を使って下さい。

本当は想定外だった事態でも、想定内という言葉を使い続けるだけで、脳内では想定内の出来事だったと勘違いしてくれるので、冷静さを取り戻すことができます。

つまり、言霊に関しても同じで、言葉が意識を変え、意識が行動を変え、結果となって返ってくるのです。自分の潜在意識の中にポジティブなことや、願いをすり込むことによって、自分の行動がその目標に向かって動きやすくなります。

④ 言霊は自分自身をプラスにもマイナスにもする

言霊は、相手から自分に掛けられた言葉と、自分が発した言葉の2つの意味があります。

良い言葉を使えば、自分自身を奮い立たせる力となったり、誰かを救う言葉になったりとプラスに作用する一方で、悪い言葉を使えば自身の可能性を閉ざしてしまったり、いらぬ恨みを買ったりするといった、表裏一体のものなのです。

誰かを苦しめようとマイナスの言葉で攻撃していたつもりが、気付いたらその言霊が全て自分に跳ね返っていた、ということも少なくありません。

言霊を意識する時、良い方向にも悪い方向にも作用する言葉であるということを強く意識しておきましょう。

⑤ 常日頃から良い言葉を使う

最近では、略語だったり、汚い言葉を軽く使ってしまう人も多い世の中ではありますが、そう

いった言葉はネガティブな言葉に分類され、その言葉にも魂が宿ってしまい、良い方向に行くことは難しいようです。

都合の良い時だけ、言霊の力を信じても叶うわけがありません。普段からしっかりと良い言葉を使うように意識することが大切です。

因みに吐くと叶うの文字から考えてみましょう。

「吐く」は、口に＋(プラス)と－(マイナス)と書きます。

私たちは、口から無意識にプラスとマイナスを発しています。

「叶う」は、口に＋(プラス)だけを付け加えると叶うになります。プラスの言葉だけを発していると叶うことを表わしています。

⑥ 人の悪口・陰口を言わない

人の悪口や陰口と言うのは、ネガティブな言葉に分類されます。人の悪口を言えば、自分にも悪い形で返ってくるものです。

言霊というのは、あくまで自分に返ってくるものなので、どれだけ人の悪口を言ったとしても人に対して害が生じるということはありません。全て自分に返ってきてしまうのです。

よく昔から人の悪口や陰口を言う人は、必ず自分もどこかで陰口や悪口を言われてると言いますが、それは言霊が持つ力なのかもしれません。

言霊うんぬんをなしにしても基本的に人の悪口や陰口などは言わないに越したことはありません。悪口が多い人は周りからの評判も悪くなるので、悪口を言わないに越したことはないと思います。

3. 大和言葉は日本古来の文字

大和言葉と漢字は別のもので、古代文字から考えてみましょう。日本の文字は、中国から伝わったと言われていますが、日本語の基となる古代文字はもっと古く縄文時代からありました。

① 血＝乳ということを古代の人は大和言葉が発生した時に悟っていたようです。

チと^ち血、^ち乳、^ち父、^ち霊は、漢字では別のもので、大和言葉では繋がっています。

これらは、生命を維持するために必要な生命源というものを意味しています。

・「血」は人体にとって最も大切なもの

・「乳」は赤ん坊にとっての命の源

・「父」は一家を物心ともに支える役割を持っている

・「霊」は生命の窮極であり、目に見える血とともに生命維持に大きな役割を持っている

科学的にも血液が乳房内の細胞を通過する時に乳に変化していくことが確認されています。

大和言葉では、血と乳の間には区別がなかったということです。

体についてもっと調べてみましょう。

② 古代人は、からだ(体)を「幹」、手足を「枝」と呼んでいました。

「め＝目」「はな＝鼻」「は＝歯」「み＝身」

「め＝芽」「はな＝花」「は＝葉」「み＝実」

この植物との共通点は単なる偶然とは思えません。

古代人は人の体を植物に見立てて名前を付けたのかもしれませんが。それくらい植物は身近なものだったようです。

○手を当てるから「てあて」、心で痛みを和らげることを意味していました。

お母さんは、「痛い痛い飛んでいけ！」と言います。

手のひらは「たなごころ＝掌」といい、これは「手の心」という意味です。昔は手当てといって掌を通して痛みを和らげようとしたものです。

4. ホツマ ツタエとは

言霊は、古事記、日本書紀よりももっと古い文書に書かれています。

ホツマとは、狭義には古代の関東一円を示し、広義には日本を讃美した言い方です。

日本書紀には、「^{しわかみ}磯輪^{ほつまくに}上の秀真国」という言葉が出ています。

秀でていて整っている国のこととされ、ツタエとは伝えるの意味です。

紀元前 7 世紀に書かれたものらしく、ホツマはアイウエオの五母音で 48 の音声で出来ています。

古事記、日本書紀の大もとの文献でありながら、政治的に消されてしまったようです。

最近になり、日本文化の骨組みを明らかにするという目的でホツマツタエに関心が高まってきました。

日本人の心とでもいうべきものが、たくさん書かれているからのようです。

① 天界の高天原に鎮座する御霊と地上の人々との繋がり

仏教の輪廻転生の考え方がホツマでは、往来の道と書かれています。

悪い方の大蛇^{おろち}も転生します。大蛇は女の人^{おろち}の怨念が凝り固まったもので、これから身を守るのが、夫婦和合です。

夫婦和合は「伊勢の道」といって、日本の陰陽道でもあります。

「伊勢」という言葉は、男女を意味するイモ、フセが縮まったものです。

② 日本文化の発祥の地

仙台周辺は、日高見が国と呼ばれていました。

10 万年前の石器が発見されており、古代都市であったようです。さらにその石器が 14 万年から 37 万年前のものであることがわかってきています。

③ ホツマに見る日本文化の特徴

ホツマツタエは、日本文化の宝庫と言うべきものであり、日本文化の重要な部分はほとんどわかります。

神道の基本的な思想、「五穀豊穰」「天下奉平」「万民存寿」「家内安全」「子孫繁栄」と一致します。

日本ではどう清浄に生活するのが問われます。

ホツマの世界からは、美に始まって美に終わります。

深い情緒性が生み出す美を感じることが出来ます。

清浄心をもとにした美意識は自然の心に沿ったものです。

清浄心はホツマでいう「直^{すぐ}なるころ」、すなわち正直真^まっすぐな心と一体で天に坐^ます神々と霊的一致をはかるために不可欠な心構えであったようです。

④ 日本の古代文明と現代文明の違い

「ホツマ」から想像できる古代文明と現代の文明には、大きな相違があります。

現代では、物質面の繁栄が文明的であるとされ、失われた精神性を他の部分で補う形がとられています。ところが、古代日本では、常に心と物とは一体でした。自然と人間、物と心を昔の人は分けなかったので、物質的に片寄ったり、精神的に片寄ったりということがなかったのです。現代社会のように、一方で無機質なものを産み出し、他方でそれによって生じたストレスをなにかの形で解消していくという無駄なことがなかったのです。

産み出されるものが、全て自然の情緒を備えていたと考えられます。

江戸以前がそうであり、古代はもっと一体だったと考えられます。

現代社会、そして今後の課題として、江戸以前の日本の自然観、文明観というものを考え直さなくてはならないと思います。

以上

本日は、令和 8 年の正月です。

次頁より、言霊を詠んだ道歌を御披露させていただきます。